

# 第1回進路保護者会

2020. 7. 2.

京都市立洛水中学校

# I . 中学校卒業後の進路

進学

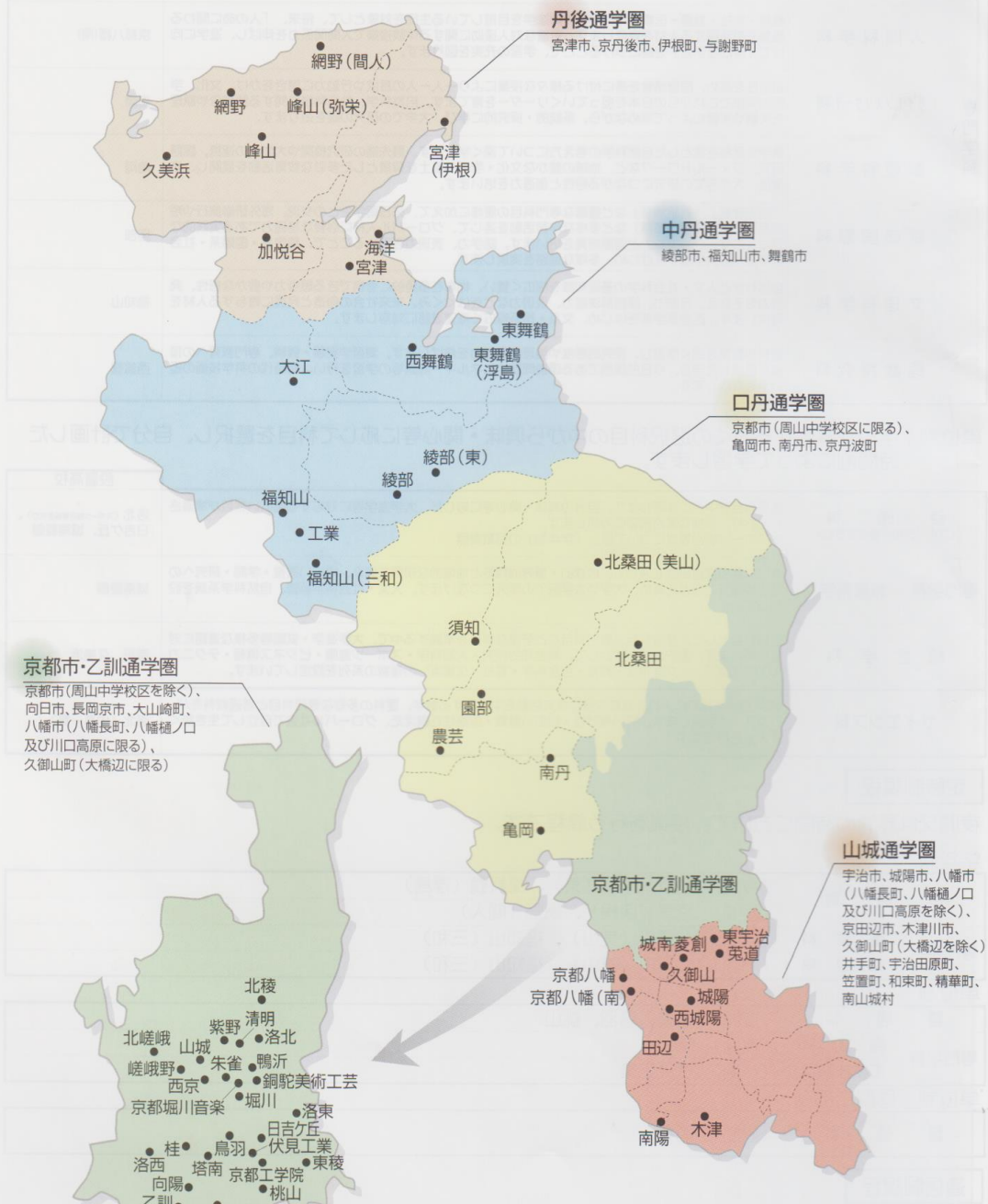
全日制高等学校	(3年)
高等専門学校	(5年, 5年半)
定時制高等学校	(3年, 4年)
通信制高等学校	(3年も可)
高等専修学校	(3年)
総合支援学校	(3年)

各種学校

高等専門学校 (旧職訓)

就職・家業従事

家事



## A. 全日制公立高等学校 普通科

### (1) 1つの通学圏

京都市内・乙訓地区で1つの通学圏

公立高校の普通科は、21校すべてから選択・志願可

### (2) 普通科のコースについて

### (3) 普通科の専門的なコース(専攻)について

- ・ スポーツ総合専攻 ・ ・ 鳥羽 ・ 西城陽 ・ 久御山 ・ 綾部
- ・ 美術 ・ 工芸専攻 ・ ・ ・ 亀岡

# 京都市・乙訓地域の公立入試制度（概要）

- ① 全日制普通科の「**類・類型制度**」を廃止
  - 「普通科」として1つに
- ② **通学区域の統合**
  - 南北2通学圏から1通学圏に
- ③ **受検機会の複数化**
  - 前期・中期・後期の3つの受検機会
- ④ 「**総合選抜制度**」の廃止
  - 「**単独選抜制度**」の導入

# ① 「普通科」として1つに

- 普通科Ⅰ類・Ⅱ類を廃止し、普通科に統合
- 合格後に各コースを希望や学力状況に応じて選択
- 学年進級時などのコース変更にも柔軟に対応
- 第Ⅲ類は専門的なコースとして存続
  - 「スポーツ総合専攻」として募集
- 紫野Ⅲ類(英文系)は専門学科として独立
  - 専門学科「アカデミア」として新規募集
- 日吉ヶ丘「国際コミュニケーション」募集停止

## ② 2通学区から1通学区へ

### ■ 京都市北・南通学区の統合

□ →「京都市・乙訓通学区」としてまとめる。

### ■ 希望できる普通科高校が2倍に

□ 北通学区11校＋南通学区10校＝21校

### ③ 複数の受検機会を確保

- **前期選抜** (すべての学科・コースで実施)
  - 特色・推薦・適正を廃止し、前期選抜に統一
  - 学校・学科の特色に応じた多元的な評価尺度で選抜
    - 一部専門学科では、前期で100%の定員を募集
    - 特別入学者選抜は従来通り実施
- **中期選抜** (従来的一般選抜)
  - 実施校はすべて共通の統一テスト
- **後期選抜** (従来2次募集)
  - 前期・中期で相当数の欠員がある場合に実施



# 京都市立京都奏和高等学校

令和3年4月スタート（伏見工業敷地内）

- ▶ 定時制 4部制（昼間・夜間）  
（単位制）1クラス20名程度  
修業年限3年間と4年間を選択
- ▶ 前期選抜, 特別入学者選抜
- ▶ 通学区域 京都府内全域
- ▶ 募集定員 80名
- ▶ 検査内容 検査A（学力検査）検査B（個人面接）

# 京都奏和高校が学んでほしい生徒像とは

- ▶ 様々な「困り」を抱え、義務教育や高校等で学びのつまずきを経験しながらも、就職や進学を見据え、学習意欲を持って、学習支援や「学び直し」を求めている。
- 「毎日」通う学校
- 「集団」に重きを置いた教育活動
- 「基礎・基本」の学習が中心

## その他

学び直し、ビジテック（ビジネス・ものづくりの実習）、キャリア教育、奏和タイム（部活動・生徒会・地域交流・校内居場所カフェ）、ICTの活用、服装（標準服と私服の選択制）、食事（食堂あり）等

## ④ 総合選抜制度の廃止→単独選抜制度の導入

- 一般選抜の**普通科 I 類**で行っていた「**総合選抜制度**」が**廃止**され、各高校が学科ごとに合格者を決定する。
- **メリット**
  - 希望の学校だけ受検できる
  - 不本意入学が無くなる
- **デメリット**
  - 人気校は難易度が上がる
  - 定員が無駄になる可能性がある

# 前期選抜の詳細

## ■ 実施時期

- 2月中旬

## ■ 実施校

- 全ての高校・学科

(普通科・職業に関する専門学科・その他の専門学科)

## ■ 志願できる学校数

- 1校1学科のみ

# 前期選抜の募集人数

- 普通科
  - 募集定員の30%
- 職業に関する専門学科
  - 募集定員の70%
- その他の専門学科(スポーツ総合専攻を含む)
  - 募集定員の100%
  - ※基本的に中期選抜での募集なし

# 前期の選抜方法

## ■ 単独選抜

- 各高校が学科ごとに合格者を決定

## ■ 選抜パターン

- A、B、C方式から各校が学科ごとに2つまで選択可能

- A方式 → 学力検査＋報告書＋面接作文

- B方式 → 報告書＋面接作文＋活動実績報告書

- C方式 → 学力検査＋作文面接＋報告書＋実技検査

## ■ 各校の詳しい検査の詳細は、後日配布

# 中期選抜の詳細

## ■ 実施時期

- 3月上旬

## ■ 実施校

- 職業に関する専門学科 (定員の30%)
- 普通科 (定員の70%)

## ■ 志望できる学校数

- 第1希望(第1順位・第2順位) 2校
- 第2希望 1校
- 計 3校まで記入可能

# 学力検査と報告書の扱い

- 共通学力検査(5教科)
  - 全ての学校が共通の問題を実施
  - 各40点 × 5教科 = **200点満点**
- 報告書(3年間9教科の評定) **中期選抜の場合**
  - 5教科 = 5点 × 5教科 × 3年間 = 75点満点
  - 4教科 = 5点 × 2倍 × 4教科 × 3年間 = 120点
  - 全教科の評定合計(3年間) = **195点満点**



# 中期選抜の合格者判定方法

## ■ 第1希望 第1順位

- 第1段階選抜で、残りの募集定員のうち90%を合計の得点が高い者から合格とする。

## ■ 第1希望 第2順位

- 第1段階選抜で、合格とならなかった者で第2順位の希望者も合わせて合否判断し、定員を埋める。

## ■ 第2希望

- 第1希望で定員を充足できなかった場合のみ、第2希望が有効となる。

# 後期選抜について

## ■ 実施時期

- 3月下旬

## ■ 実施校

- 前期・中期総合選抜実施後に、なお相当の欠員がある高校（中期選抜発表時に実施校を公表）

## ■ 選抜方法

- 全校共通の学力検査（国数英）＋面接＋報告書
- 各高校が学科ごとに合格者を決定

## ■ 必ず実施するとは限らない！

# 私立高校の入試について

## ■ 実施時期

- 京阪神は、昨年度は2月10日～でした。
- 他府県(滋賀県・奈良県)は、受験日が異なります。

## ■ 受験の仕方

### □ 推薦・専願

- → 学校によって求められる成績の基準がある。

### □ 併願

- → 推薦や専願より厳しい基準となる場合が多い。
- ※ 公立が第1希望の場合は、併願受験となります。

# 進学には、費用が必要です

- 公立高校は、無償ではありません。
  - 国からの支給は、授業料分のみで、その他の費用は全額支払う必要があります。
- 私立高校は、初年度に多くの費用が掛かります
  - 入学金や施設拡充費、授業料...と費用がかさむが、その内公立の授業料と同額は、国から支給される。
  - 京都府が、私学助成金を独自に設置し、授業料分を給付する修学資金制度がある。(所得制限あり)